

～自分やふるさとに誇りをもち、夢や希望に向かう子ども～
 ○ 自ら学ぶ子ども
 ○ 心豊かな子ども
 ○ たくましい子ども

玉っ子

NO20 R5.12.1

文責 校長 佐藤則之

現在の校舎ができた時の話

学校創立150周年にあたり、本校に今まで保管されている写真や発行物などをみる機会が何度かあり、当時の子どもたちや保護者の思いが表われているものに出会うことがあります。その一つに、現在の鉄筋コンクリート3階建ての校舎ができた際のPTA会報があります。「新校舎第一期工事完成特集号」として紹介されていました。昭和44年3月発行ですから、当時の6年生は現在65・66歳となっているでしょう。5年生と6年生が3月7日に引っ越しを完了し、6年生は10日間という短期間でも新校舎で学校生活を味わうことができるようにとの配慮がなされていました。

当時の6年生代表児童の作文を紹介します。

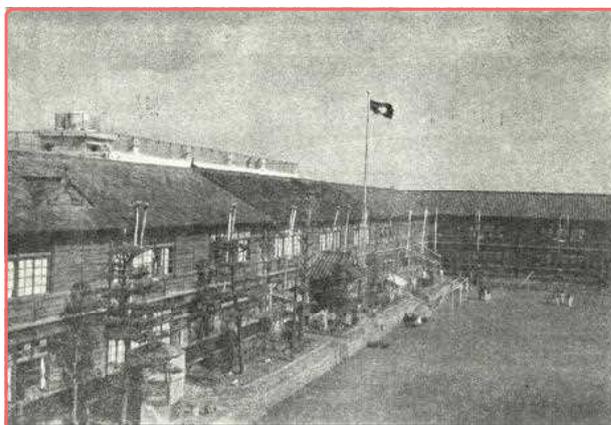
「新しい校舎へ移っての感想」

私たちが卒業前に「是非新しい校舎に入れてやりたい」という村の人たちや先生方の温かいおほねおりがあった。昭和四十四年三月七日、とうとう待ちに待った新校舎に入ることができた。

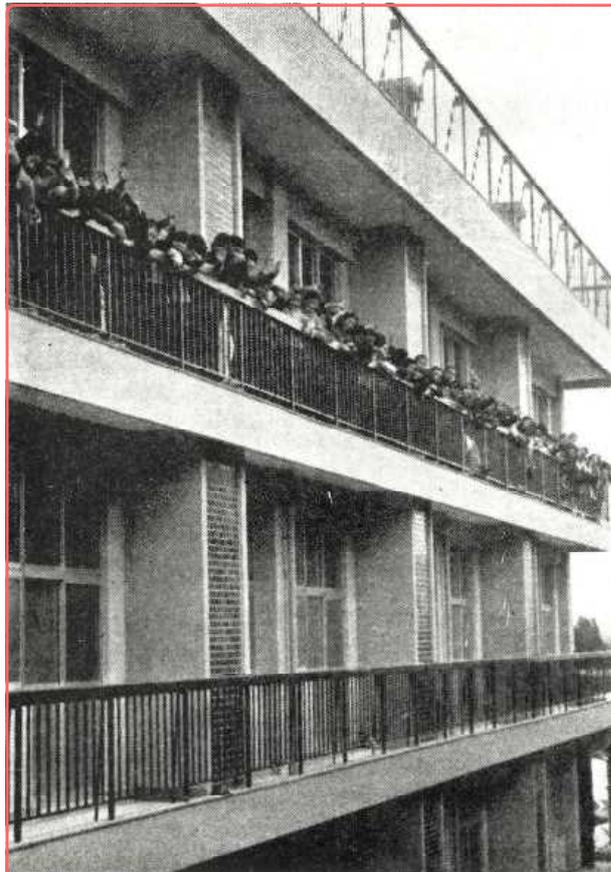
まるで学校と言うよりは、ホテルのような感じのする学校だ。廊下もつるつる、私は思わずそとすべってみた。壁の色合いもいいし、みるもの、さわるもの全てが驚きだ。

私たちの教室は三階で、日当たりもよく、とても明るい。そのうえ、ストーブは近代的な石油ストーブであたたかいし、今までの石炭ストーブと異なって、あとしまつで苦勞することはない。こういう環境なので学習にも一段と精がでる。

先生に連れられて屋上に上ってみた。玉井が目の前に開けて、まるで、展望台から見下ろしているような感じだ。この新しい校舎には自慢できるものがたくさんある。水洗便所、給食を運ぶリフト、放送室も素晴らしい卒業まであと十日しかないと思うと名残惜しい気持ちで一杯だが、この立派な教室で一日一日を楽しく過ごしていきたいと思う。



旧校舎の後ろに、新校舎が見えます



3階ベランダの子どもたち

～ 県内インフル急増 ～

新聞報道によると、県内のインフルエンザの患者数が急増し、今シーズン最多となっているそうです。10歳未満と10代で全体の85%超と、子どもたちの罹患が多いようです。感染防止のため、学習活動により子どもたちへマスクの着用を推奨することができますので、御理解をお願いします。